

令和4年度病害虫発生予察特殊報第1号

令和4年(2022年)8月26日
山口県病害虫防除所

1 害虫名 トマトキバガ(学名:*Tuta absoluta*(Meyrick))

2 特殊報の内容 山口県内での誘殺の初確認

3 発生確認の経緯

令和4年8月8日、山口県内に設置したトラップに誘殺されたガの成虫を当所で確認したところ、トマトキバガと疑われたため、神戸植物防疫所に同定を依頼した。

その結果、県内では発生の確認されていなかったトマトキバガ *Tuta absoluta* (Meyrick) であることが判明した。

なお、現在、県内の農作物における本種の発生及び被害は認められていない。

4 国内外での発生状況

本種は南アメリカ原産であるが、平成18年にスペインへの侵入が確認され、ヨーロッパ、アフリカ、中央アメリカ、西アジア、アラビア半島、インド、ネパール、東南アジアに分布を拡大しており、令和3年5月までに、台湾、中国、中央アジア諸国などでも発生が確認されている。

国内では、令和3年10月に熊本県で初めて確認され、同年12月には宮崎県においても確認された。また、令和4年3月以降は、鹿児島県、大分県、福岡県、長崎県、愛媛県、和歌山県、岡山県の侵入警戒トラップで本種が誘殺されており、特殊報が発表されている。

寄主植物は、トマト、ナス、タバコ、バレイショなどのナス科植物の他、マメ科のインゲンマメが確認されている。

5 本虫の特徴

(1) 被害の状況

トマトでは、葉の内部に幼虫が潜り込んで食害し、食害部分は表面のみ残して薄皮状になり、白～褐変した外観となる(写真1)。また、果実に幼虫が穿孔侵入して内部組織を食害するため、果実表面に数mm程度の穿孔痕が生じる(写真2)とともに、食害部分の腐敗が生じ、果実品質が著しく低下する。

海外では、フランスにおいて、バレイショ塊茎への直接加害も報告されている。

(2) 形態

幼虫は終齢で体長約8mmに達する。体色は淡緑色～淡赤白色で、前胸の背面後方に狭い黒色横帯を有する(写真3)。

成虫は翅を閉じた静止時で体長5～7mm、前翅は灰褐色で黒色斑が散在する。後翅は一様に淡黒褐色である(写真4)。

(3) 生態

ア 1年に複数回の世代が発生し、繁殖力が高い。発生世代数は環境条件によって異なる。卵から成虫になるまでの期間は24～38日程度で、気温が低い時期は更に期間が延びる。また、発育下限温度は8℃と推定されている。

イ 幼虫は1齢から4齢までの生育ステージがあり、土中や茎葉の内部及び外部で蛹化する。成虫は夜行性で、日中は葉の間に隠れていることが多い。

ウ 雌は一生のうちに平均で約260個の卵を寄主植物の葉の裏面などに産み付ける。

6 防除対策

- (1) ほ場内をよく見回り、被害葉や被害果はほ場内から持ち出すとともに、放置せず、速やかに適切に処分する。
- (2) 現在、トマトキバガに対する登録農薬はないが、植物防疫法第29条第1項に基づく措置として、別紙に記載された農薬による防除を行う。

なお、薬剤防除にあたっては、薬剤抵抗性発達防止のため、異なる系統の薬剤によるローテーション散布を行う。



写真1 トマトキバガ幼虫による食害（葉）



写真2 トマトキバガ幼虫による食害（果実）



写真3 食害中の幼虫



写真4 トマトキバガ成虫
（山口県での捕獲虫）

【写真1～3 熊本県病害虫防除所提供】

お問い合わせ先：山口県病害虫防除所

TEL (083) 927-4006

FAX (083) 927-0214

E-mail a172011@pref.yamaguchi.lg.jp

トマトキバガに対しては 以下の農薬を使用して防除を行ってください。

以下に記載した農薬はトマトキバガに対して登録はありませんが、植物防疫法第29条第1項の規定による防除を行うために使用が可能です。

また、使用にあたっては購入した農薬の適用作物、使用方法、使用時期、散布液量、希釈倍数使用量、使用回数を守ることで、出荷停止等、流通に支障が出ることもありません。

○ トマト

農薬の種類	使用方法	希釈倍数 使用量	使用時期	散布液量	本剤の 使用回数	RAC コード	系統名	チョウ目 登録	ハモグリバ 工類登録
アクリナトリン・スピロメシフェン水和剤	散布	2000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	2回以内	3A 23	ピレスロイド系 ピレトリン系 テトロン酸及びテトラミン酸誘導体	○	-
アクリナトリン水和剤	散布	1000倍	収穫前日まで	150～300L/10a	3回以内	3A	ピレスロイド系 ピレトリン系	○	-
イソキサチオン粉剤	土壌表面散布 土壌混和処理	6kg/10a	は種時又は植付時		2回以内	1B	有機リン系	○	-
インドキサカルブ水和剤	散布	2000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	2回以内	22A	オキサジアジン系	○	-
エマメクテン安息香酸塩・ルフェヌロン水和剤	散布	1500倍	収穫前日まで	100～300L/10a	2回以内	6 15	アベルメクテン系 ミルベマイシン系 ベンゾイル尿素系	○	○
エマメクテン安息香酸塩乳剤	散布	2000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	5回以内	6	アベルメクテン系 ミルベマイシン系	○	○
クロマフェノジド水和剤	散布	1000～2000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	3回以内	18	ジアシル-ヒドラジン系	○	-
クロラントラニプロール水和剤	散布	2000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	3回以内	28	ジアミド系	○	○
クロラントラニプロール粒剤	株元散布	1g/株	育苗期後半～定植時		1回	28	ジアミド系	○	○
クロルフェナビル水和剤	散布	2000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	3回以内	13	ピロール系 ジニトロフェノール系 スルフルアミド	○	○
クロルフルアズロン乳剤	散布	2000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	3回以内	15	ベンゾイル尿素系	○	-
シアントラニプロール・チアメトキサム粒剤	株元散布	2g/株	鉢上げ時～育苗期後半		1回	28 4A	ジアミド系 ネオニコチノイド系	○	○
シアントラニプロール水和剤	散布	2000～4000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	3回以内	28	ジアミド系	○	○
スピネトラム水和剤	散布	2500～5000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	2回以内	5	スピノシン系	○	○
スピノサド水和剤	散布	5000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	2回以内	5	スピノシン系	○	○
ダイアジン粒剤	土壌混和	6～9kg/10a	は種時又は植付時		2回以内	1B	有機リン系	○	-
ダイアジン粒剤	全面土壌混和又は作業土壌混和	4～6kg/10a	は種時又は定植時		2回以内	1B	有機リン系	○	-
テトラニプロール水和剤	散布	2500～5000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	3回以内	28	ジアミド系	○	○
テフルベンズロン乳剤	散布	2000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	2回以内	15	ベンゾイル尿素系	○	-
ノバルロン乳剤	散布	2000～3000倍	1番花の開花まで	100～300L/10a	4回以内	15	ベンゾイル尿素系	○	○
ピリダリル水和剤	散布	1000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	2回以内	UN		○	○
フルキサメタミド乳剤	散布	2000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	2回以内	30	メタジアミド系 イソキサゾリン系	○	○
フルフェノクスロン乳剤	散布	2000～4000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	4回以内	15	ベンゾイル尿素系	○	○
フルベンジアミドくん煙剤	くん煙	くん煙室容積 400m ³ (床面積 200m ² ×高さ2m) 当り50g	収穫前日まで		2回以内	28	ジアミド系	○	-
フルベンジアミド水和剤	散布	2000～4000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	2回以内	28	ジアミド系	○	-
ベルメトリン粒剤	株元散布	3kg/10a	生育初期		3回以内	3A	ピレスロイド系 ピレトリン系	○	-
メタフルミゾン水和剤	散布	1000～2000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	3回以内	22B	セミカルバジン系	○	-
メトキシフェノジド水和剤	散布	2000～4000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	2回以内	18	ジアシル-ヒドラジン系	○	-
ルフェヌロン乳剤	散布	2000～3000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	4回以内	15	ベンゾイル尿素系	○	○
レピメクテン乳剤	散布	2000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	3回以内	6	アベルメクテン系 ミルベマイシン系	○	○
還元澱粉糖化物・クロチアニジン・ピリダリル・ベルメトリン・マンデストロピン水和剤	散布	原液	収穫前日まで		2回以内	4A 3A UN	ネオニコチノイド系 ピレスロイド系 ピレトリン系	○	-
脂肪酸グリセリド・スピノサド水和剤	散布	1000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	2回以内	5	スピノシン系	○	○

○ ミニトマト

農薬の種類	使用方法	希釈倍数 使用量	使用時期	散布流量	本剤の 使用回数	RAC コード	系統名	チョウ目 登録	ハモグリバ エ類登録
アクリナトリン・スピロ メシフェン水和剤	散布	2000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	2回以内	3A 23	ピレスロイド系 ピレトリン系 テトロン酸及びテト ラミン酸誘導体	○	-
アクリナトリン水和剤	散布	1000倍	収穫前日まで	150～300L/10a	2回以内	3A	ピレスロイド系 ピレトリン系	○	-
イソキサチオン粉剤	土壌表面散布土 壌混和処理	6kg/10a	は種時又は植付 時		2回以内	1B	有機リン系	○	-
エマメクチン安息香酸 塩・ルフェヌロン水和剤	散布	1500倍	収穫前日まで	100～300L/10a	2回以内	6 15	アベルメクチン系 ミルベマイシン系 ベンゾイル尿素系	○	○
エマメクチン安息香酸塩 乳剤	散布	2000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	5回以内	6	アベルメクチン系 ミルベマイシン系	○	○
クロマフェノジド水和剤	散布	1000～2000倍	収穫7日前まで	100～300L/10a	3回以内	18	ジアシル-ヒドラジ ン系	○	-
クロラントラニプロール 水和剤	散布	2000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	3回以内	28	ジアミド系	○	○
クロルフェナピル水和剤	散布	2000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	3回以内	13	ピロール系 ジニトロフェノール 系 スルフルラミド	○	○
クロルフルアズロン乳剤	散布	2000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	3回以内	15	ベンゾイル尿素系	○	-
シアントラニプロール・ チアメトキサム粒剤	株元散布	2g/株	鉢上げ時～育苗 期後半		1回	28 4A	ジアミド系 ネオニコチノイド系	○	○
シアントラニプロール 水和剤	散布	2000～4000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	3回以内	28	ジアミド系	○	○
スピネトラム水和剤	散布	2500～5000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	2回以内	5	スピノシン系	○	○
スピノサド水和剤	散布	5000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	2回以内	5	スピノシン系	○	○
テトラニプロール水和 剤	散布	2500～5000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	3回以内	28	ジアミド系	○	○
テフルベンズロン乳剤	散布	2000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	2回以内	15	ベンゾイル尿素系	○	-
ノバルロン乳剤	散布	2000～3000倍	1番花の開花ま で	100～300L/10a	4回以内	15	ベンゾイル尿素系	○	○
ピリダリル水和剤	散布	1000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	2回以内	UN		○	○
フルキサメタミド乳剤	散布	2000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	2回以内	30	メタジアミド系 イソオキサゾリン系	○	○
フルフェノクスロン乳剤	散布	2000～4000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	2回以内	15	ベンゾイル尿素系	○	○
フルベンジアミド水和剤	散布	2000～4000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	2回以内	28	ジアミド系	○	-
ベルメトリン粒剤	株元散布	3kg/10a	生育初期		1回	3A	ピレスロイド系 ピレトリン系	○	-
メタフルミゾン水和剤	散布	1000～2000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	3回以内	22B	セミカルバゾン系	○	-
ルフェヌロン乳剤	散布	2000～3000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	2回以内	15	ベンゾイル尿素系	○	○
レビメクチン乳剤	散布	2000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	3回以内	6	アベルメクチン系 ミルベマイシン系	○	○
脂肪酸グリセリド・スピ ノサド水和剤	散布	1000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	2回以内	5	スピノシン系	○	○

○ ピーマン

農薬の種類	使用方法	希釈倍数 使用量	使用時期	散布液量	本剤の 使用回数	RAC コード	系統名	チョウ目 登録	ハモグリバ 工類登録
インドキサカルブ水和剤	散布	2000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	2回以内	22A	オキサジアジン系	○	-
エマメクチン安息香酸塩・ルフェヌロン水和剤	散布	1500倍	収穫前日まで	100～300L/10a	2回以内	6 15	アベルメクチン系 ミルベマイシン系 ベンゾイル尿素系	○	○
エマメクチン安息香酸塩乳剤	散布	2000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	2回以内	6	アベルメクチン系 ミルベマイシン系	○	○
クロマフェノジド水和剤	散布	1000～2000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	3回以内	18	ジアシル-ヒドラジン系	○	-
クロラントラニプロール水和剤	散布	1000～2000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	2回以内	28	ジアミド系	○	○
クロラントラニプロール水和剤	灌注	100倍	育苗期後半～定植当日	1株当り25ml	1回	28	ジアミド系	○	○
クロルフェナビル水和剤	散布	2000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	2回以内	13	ピロール系 ジニトロフェノール系 スルフルラミド	○	○
クロルフルアズロン乳剤	散布	2000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	3回以内	15	ベンゾイル尿素系	○	-
シアントラニプロール水和剤	散布	2000～4000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	3回以内	28	ジアミド系	○	○
シベルメトリン水和剤	散布	2000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	5回以内	3A	ピレスロイド系 ピレトリン系	○	-
スピネトラム水和剤	散布	2500～5000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	2回以内	5	スピノシン系	○	○
スピノサド水和剤	散布	2500～5000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	2回以内	5	スピノシン系	○	○
ダイアジン粒剤	土壌混和	6～9kg/10a	は種時又は植付時		2回以内	1B	有機リン系	○	-
ダイアジン粒剤	全面土壌混和又は作楽土壌混和	4～6kg/10a	は種時又は定植時		2回以内	1B	有機リン系	○	-
テトラニプロール水和剤	散布	2500～5000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	3回以内	28	ジアミド系	○	○
ノバルロン乳剤	散布	3000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	4回以内	15	ベンゾイル尿素系	○	○
ビリダリル水和剤	散布	1000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	2回以内	UN		○	○
フルキサメタミド乳剤	散布	2000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	2回以内	30	メタジアミド系 イソオキサゾリン系	○	○
フルフェノクスロン乳剤	散布	2000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	3回以内	15	ベンゾイル尿素系	○	○
フルベンジアミドくん煙剤	くん煙	くん煙室容積 400m ³ (床面積 200m ² ×高さ2m) 当り50g	収穫前日まで		2回以内	28	ジアミド系	○	-
フルベンジアミド水和剤	散布	2000～4000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	2回以内	28	ジアミド系	○	-
ベルメトリン乳剤	散布	2000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	5回以内	3A	ピレスロイド系 ピレトリン系	○	○
ベルメトリン乳剤	散布	200倍	収穫前日まで	100～300mL/m ²	5回以内	3A	ピレスロイド系 ピレトリン系	○	-
ベルメトリン乳剤	散布	300倍	収穫前日まで	100～300mL/m ²	5回以内	3A	ピレスロイド系 ピレトリン系	○	○
ベルメトリン粒剤	株元散布	3kg/10a	生育初期		5回以内	3A	ピレスロイド系 ピレトリン系	○	-
メタフルミゾン水和剤	散布	1000～2000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	3回以内	22B	セミカルバゾン系	○	-
メトキシフェノジド水和剤	散布	2000～4000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	2回以内	18	ジアシル-ヒドラジン系	○	-
ルフェヌロン乳剤	散布	2000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	4回以内	15	ベンゾイル尿素系	○	○
レピメクチン乳剤	散布	2000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	3回以内	6	アベルメクチン系 ミルベマイシン系	○	○
脂肪酸グリセリド・スピノサド水和剤	散布	1000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	2回以内	5	スピノシン系	○	○

○ なす

農薬の種類	使用方法	希釈倍数 使用量	使用時期	散布液量	本剤の 使用回数	RAC コード	系統名	チョウ目 登録	ハモグリバ 工類登録
アクリナトリン水和剤	散布	1000倍	収穫前日まで	150～300L/10a	4回以内	3A	ピレスロイド系 ピレトリン系	○	-
イソキサチオン粉剤	土壌表面散布土 壌混和処理	6kg/10a	は種時又は植付 時		2回以内	1B	有機リン系	○	-
インドキサカルブ水和剤	散布	2000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	2回以内	22A	オキサジアジン系	○	-
エマメクテン安息香酸 塩・クロラントリニブ ロール水和剤	散布	2000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	2回以内	6 28	アベルメクテン系 ミルベマイシン系 ジアミド系	○	○
エマメクテン安息香酸 塩・ルフェスロン水和剤	散布	1500倍	収穫前日まで	100～300L/10a	2回以内	6 15	アベルメクテン系 ミルベマイシン系 ベンゾイル尿素系	○	○
エマメクテン安息香酸塩 乳剤	散布	2000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	2回以内	6	アベルメクテン系 ミルベマイシン系	○	○
クロマフェノジド水和剤	散布	1000～2000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	3回以内	18	ジアシル-ヒドラジ ン系	○	-
クロラントリニブロー ル水和剤	灌注	100倍	育苗後半～定 植当日	1株当り25ml	1回	28	ジアミド系	○	○
クロラントリニブロー ル水和剤	散布	2000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	2回以内	28	ジアミド系	○	○
クロラントリニブロー ル粒剤	株元散布	1g/株	育苗後半～定 植時		1回	28	ジアミド系	○	○
クロルフェナビル水和剤	散布	2000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	4回以内	13	ピロール系 ジニトロフェノール 系 スルフルラミド	○	○
クロルフルアズロン乳剤	散布	2000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	3回以内	15	ベンゾイル尿素系	○	-
シアントラニブロー ル・チアメトキサム粒剤	株元散布	2g/株	鉢上げ時～育苗 期後半		1回	28 4A	ジアミド系 ネオニコチノイド系	○	○
シアントラニブロー ル水和剤	灌注	400株当り25ml	育苗後半～定 植当日	400株当り10～ 20L(1株当り25～ 50ml)	1回	28	ジアミド系	○	○
スピネトラム水和剤	散布	2500～5000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	2回以内	5	スピノシン系	○	○
スピノサド水和剤	散布	5000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	2回以内	5	スピノシン系	○	○
ダイアジン粒剤	土壌混和	6～9kg/10a	は種時又は植付 時		2回以内	1B	有機リン系	○	-
ダイアジン粒剤	全面土壌混和又は 作業土壌混和	4～6kg/10a	は種時又は定植 時		2回以内	1B	有機リン系	○	-
テトラニブロー ル水和剤	灌注	200倍	育苗後半～定 植当日	25ml/株	1回	28	ジアミド系	○	○
テトラニブロー ル水和剤	散布	2500～5000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	3回以内	28	ジアミド系	○	○
テフルベンズロン乳剤	散布	2000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	2回以内	15	ベンゾイル尿素系	○	-
ノバルロン乳剤	散布	2000～3000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	4回以内	15	ベンゾイル尿素系	○	○
ピフェントリンくん煙剤	くん煙	くん煙処理室の 容積400m ³ (床面 積200m ² ×高さ 2m)当り48g	収穫前日まで		3回以内	3A	ピレスロイド系 ピレトリン系	○	-
ピリダリル水和剤	散布	1000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	4回以内	UN		○	○
フェンバレレート・マラ ソン水和剤	散布	2000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	5回以内	3A 1B	ピレスロイド系 ピレトリン系 有機リン系	○	-
フルキサメタミド乳剤	散布	2000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	2回以内	30	メタジアミド系 イソキサゾリン系	○	○
フルフェノクスロン乳剤	散布	2000～4000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	4回以内	15	ベンゾイル尿素系	○	○
フルベンジアミドくん煙 剤	くん煙	くん煙室容積 400m ³ (床面積 200m ² ×高さ2m) 当り50g	収穫前日まで		3回以内	28	ジアミド系	○	-
フルベンジアミド水和剤	散布	2000～4000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	3回以内	28	ジアミド系	○	-
ベルメトリン粒剤	株元散布	3kg/10a	生育初期		3回以内	3A	ピレスロイド系 ピレトリン系	○	-
メタフルミゾン水和剤	散布	1000～2000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	3回以内	22B	セミカルバゾン系	○	-
メトキシフェノジド水和 剤	散布	2000～4000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	2回以内	18	ジアシル-ヒドラジ ン系	○	-
ルフェスロン乳剤	散布	2000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	4回以内	15	ベンゾイル尿素系	○	○
レビメクテン乳剤	散布	1000～2000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	3回以内	6	アベルメクテン系 ミルベマイシン系	○	○
還元澱粉糖化物・クロチ アニジン・ピリダリル・ ベルメトリン・マンデス トロピン水和剤	散布	原液	収穫前日まで		3回以内	4A 3A UN	ネオニコチノイド系 ピレスロイド系 ピレトリン系	○	-
脂肪酸グリセリド・スピ ノサド水和剤	散布	1000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	2回以内	5	スピノシン系	○	○

○ ばれいしょ

農薬の種類	使用方法	希釈倍数 使用量	使用時期	散布液量	本剤の 使用回数	RAC コード	系統名	チョウ目 登録	ハモグリバ 工類登録
NAC水和剤	散布	800～1000倍	収穫7日前まで	100～300L/10a	3回以内	1A	カーバメート系	○	-
PAP乳剤	散布	1000倍	収穫14日前まで	100～300L/10a	2回以内	1B	有機リン系	○	○
PAP粉剤	散布	3kg/10a	収穫14日前まで		2回以内	1B	有機リン系	○	○
アセタミプリド水溶剤	散布	2000倍	収穫7日前まで	100～300L/10a	3回以内	4A	ネオニコチノイド系	○	○
アセフェート水溶剤	散布	1000倍	収穫30日前まで	100～300L/10a	2回以内	1B	有機リン系	○	○
カルタップ水溶剤	散布	1000倍	収穫7日前まで	100～300L/10a	6回以内	14	ネライストキシン類 縁体	○	○
カルタップ粉剤	種いも粉衣	種いも重量の 0.3%	植付前		1回	14	ネライストキシン類 縁体	○	-
シアントラニリプロール 水和剤	無人航空機による 散布	40倍	収穫7日前まで	2～3.2L/10a	3回以内	28	ジアミド系	○	○
シアントラニリプロール 水和剤	散布	4000倍	収穫7日前まで	100～300L/10a	3回以内	28	ジアミド系	○	○
スピネトラム水和剤	散布	2500～5000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	2回以内	5	スピノシン系	○	○
ダイアジノン粒剤	土壌混和	6～9kg/10a	植付前		1回	1B	有機リン系	○	-
ダイアジノン粒剤	全面土壌混和又は 作業土壌混和	4～6kg/10a	植付前		1回	1B	有機リン系	○	-
トラロメトリン水和剤	散布	2000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	5回以内	3A	ピレスロイド系 ピレトリン系	○	○
ピリダリル水和剤	散布	1000倍	収穫7日前まで	100～300L/10a	2回以内	UN		○	○
フルベンジアミド水和剤	散布	2000～4000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	2回以内	28	ジアミド系	○	-
プロチオホス乳剤	散布	1000倍	収穫14日前まで	100～300L/10a	3回以内	1B	有機リン系	○	○
プロフェノホス乳剤	散布	1500倍	収穫7日前まで		6回以内	1B	有機リン系	○	-
ベルメトリン粒剤	株元散布	3kg/10a	生育初期		4回以内	3A	ピレスロイド系 ピレトリン系	○	-
メソミル水和剤	散布	1000倍	収穫7日前まで	100～300L/10a	5回以内	1A	カーバメート系	○	-
メソミル粉粒剤	散布	3～5kg/10a	収穫7日前まで		5回以内	1A	カーバメート系	○	-
ルフェヌロン乳剤	散布	3000倍	収穫7日前まで	100～300L/10a	2回以内	15	ベンゾイル尿素系	○	○